

# 神戸税関庁舎

## ◆三代目神戸税関庁舎

三代目神戸税関庁舎は、阪神・淡路大震災の後、1996年（平成8年）3月に着工し、1999年（平成11年）3月に竣工しました。

三代目庁舎は、みなと神戸のランドマークとして親しまれてきた時計塔のある二代目庁舎（以下「旧館」という。）の口の字型の西側部分と中央部にあった二層吹き抜け部分を撤去し、南北の庁舎部分を延長するかたちで新館を増築しました。



新館の低層部の外観は、旧館のファサード（建物の装飾的な面）をそのまま連続させるかたちで延長し、周辺の景観に違和感なく溶け込ませるようなデザインとしています。低層部から浮かび上がった新館高層部の外観は、低層部と対比的な調和を目指したモダンな構成とし、港の番人の象徴として”船”をイメージしています。旧館西側と中央の吹き抜け部分を撤去して生み出した中庭は、市民が自由に出入りできる空間として、”開かれた税関”を象徴するものとなりました。

## 随所に歴史の名残が見られます

・中庭に独立して立つ柱列は、旧館の二層吹き抜けの屋根を支えていたものです。



・中庭の噴水には、旧館外構の敷石を再利用しています。



・中庭のベンチには、旧館1階事務室にあったカウンターの花崗岩でできた天板を再利用しています。



・新館アトリウム正面最上部の石膏レリーフは、旧税関長室の壁面装飾を拡大したものです。



・新館アトリウムの照明は、二代目庁舎建造当初の照明デザインを復刻したものです。



・旧税関長室（2階）を毎年11月の日曜日に特別公開しています。（オープンカスタムス）



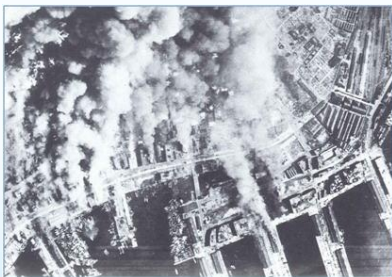
# ◆二代目神戸税関庁舎

## 》神戸建築百選

二代目神戸税関庁舎は、1995年（平成5年）に神戸市建築文化賞制定20周年記念「神戸建築百選」で選出されています。

## 》戦災と震災

二代目神戸税関庁舎は、1927年（昭和2年）3月に完成し、戦災で焼失することなく、また、阪神淡路大震災でも建物自体解体にいたるような致命的な被害はありませんでした。



### 》神戸大空襲

1945年（昭和20年）6月5日には、重爆撃機B29の350機の大編隊が来襲した。

写真右下の新港第三突堤の根元に、二代目神戸税関庁舎が確認できます。

〔「神戸税関120年の歩み」より〕



### 》阪神淡路大震災

1995年（平成7年）1月17日に発生した阪神淡路大震災では二代目神戸税関庁舎は建物自体解体にいたるような致命的な被害はなく、震災直後から懸垂幕で、神戸の人々を励ますためのメッセージを発信しました。

※写真にあるメッセージは、「港に船を 街に憩いを 神戸税関」です。



二代目神戸税関庁舎（1990年当時）

### 庁舎新築工事概要

起工 大正12年4月14日  
竣工 昭和2年3月31日  
設計 大蔵省営繕管財局神戸出張所  
施工 森田福市（広島市）  
鉄筋コンクリート造  
地上4階（塔屋部分地上8階）  
地下1階

（「神戸税関庁舎新築概要」より）

## ◆近代化産業遺産

2007年（平成19年）11月30日、三代目神戸税関庁舎は、神戸港の港湾施設や旧居留地のビルらとともに、経済産業省から「地域活性化に役立つ近代化産業遺産商業貿易港として発展し続ける神戸港の歩みを物語る近代化産業遺産群」に認定されました。

### ＜参考＞地域活性化のための「近代化産業遺産群」の取りまとめの趣旨（抜粋）

幕末から昭和初期にかけての産業近代化の過程は、今日の「モノづくり大国・日本」の礎として、また、各地域における今日の基幹産業のルーツとして極めて大きな意義を持っています。このような産業近代化の過程を物語る存在として、全国各地には数多くの建造物、機械、文書などが今日まで継承されています。これらの「近代化産業遺産」が持つ価値をより顕在化させ、地域活性化に役立てることを目的として、産業史や地域史のストーリーを軸に、相互に関連する複数の遺産により構成される「近代化産業遺産群」を取りまとめることにしました。



## ◆オープンカスタムス

神戸税関では、市民の皆様には税関をより身近に感じていただくため、税関記念日である11月の休日に神戸税関の庁舎を一般開放するオープンカスタムスを開催し、旧税関長室（もと貴賓室）を特別公開しています。当日は、麻薬探知犬によるデモンストラーションや神戸税関音楽隊などによるホールコンサート、カスタム君・カスタムちゃんとの記念撮影なども行っています。今年も開催する予定ですので、皆様ぜひお越しください。



## ◆三代目神戸税関庁舎 受賞の数々

三代目神戸税関庁舎は、数々の賞を受賞していますので主なものを紹介します。

### 》第41回建築業協会賞(BCS賞) <2000年11月受賞>

建築業協会賞は、社団法人建築業協会の初代理事長(竹中藤右衛門)の発意によって昭和35年(1960年)に創設されたもので、日本国内の良好な建築資産の創出を図り、文化の進展と地球環境保全に寄与することを目的に、毎年、国内の優秀な建築物を表彰しているものです。

この賞の選考対象は、種類・規模にかかわらず、国内において建築された建築物で、供用開始後1年以上を経過したものが対象であり、選考は、建築の事業企画、計画・設計、環境及び建築物の運用・維持管理等を総合評価して選考されます。

### 》第9回公共建築賞(近畿地区優秀賞) <2004年 6月受賞>

### 》第9回公共建築賞(優秀賞) <2004年11月受賞>

公共建築賞とは、優れた公共建築を表彰することにより公共建築の総合的な水準の向上に寄与することを目的として、昭和63年より建設省(現国土交通省)及び全国知事会等の後援を得て、一年おきに開催されているものです。都市の記憶を残して隣接する歴史的建築物保存エリアの景観形成に寄与するばかりでなく、環境負荷の低減に配慮した「グリーン庁舎」となっていることなどが評価されました。

### 》神戸市建築文化賞(建築文化部門) <2005年2月受賞>

神戸市建築文化賞は、市民に親しまれる良い建築物を表彰することにより、建物に対する市民の関心を深め、神戸の建築文化を高めることを目的として、昭和49年から概ね3年に1回の頻度で実施されており、市民から推薦を受けた建物について、学識経験者等で構成される「選考委員会」によって審査され、受賞作品が決定されます。

歴史的景観を創造的に再生させているなどの評価をいただきました。

